

評価対象事業への追加質問

事業名	住み慣れた地域で暮らし続けるための拠点づくり事業
所管課	道路河川室
取組	南横山校区デマンド交通実証運行事業
質問	<p>① 各月の「配車台数」を「配車可能台数」で割ることにより「配車率」を積算すると、1月は約6.5%、2月は10.7%、3月は11.6%となる。 事業担当課として、この利用状況をどのように評価しているのか。</p> <p>② 運行に要した委託料の決算額151,300円を、利用者数115人で割ると、平均で1人あたり約1,300円の経費がかかっていることになる。 事業担当課として、費用対効果の観点からどのように評価しているのか。</p> <p>③ この取組は、交通機関空白地における効率的・効果的な交通網形成に向けた「実証実験」ということであり、本年度、平成29年度の利用実績等について分析を行うとのことだが、この「デマンド交通」の手法が効率的・効果的であると判断する場合の基準を持っているのか。</p>
所管課の回答	<p>① 委託事業者の見解では、本市実証運行の利用実績は、他市（堺市・河内長野市）の運行事例と比較しても、利用者は少なくないと言われております。配車率に関しては、時間帯毎の利用ニーズを詳細に把握する必要があり、運行ダイヤを多く設定したことから、低くなったものです。今回の利用実績や地域へのヒアリングを踏まえ、利用ニーズの向上や配車便数の適正化について検証していきます。</p> <p>② 乗合のあった便が70便のうち5便と少なかったことから、利用者一人あたりの経費が割高になったものです。今後、今回の利用実績や地域へのヒアリングを踏まえ、乗合件数の増加を目指し、利用者一人あたりのコストについて縮減を図りたいと考えます。</p> <p>③ 「デマンド交通」が効率的・効果的であると判断する明確な判断基準はございませんが、交通機関空白地域において移動手段を確保することは必要であり、今回の利用実態から、無駄に定時定路線を走らせることのない「デマンド交通」手法を採用したことは、有効であったと考えます。今後、「デマンド交通」を導入するにあたっては、料金設定や行き先、配車便数のほか、自宅前から目的地をつなぐ「ドアツウドア方式」等の運行形態も含めて、検証を進めたいと考えております。</p>